

2022年6月1日からの
国会請願国賠署名、同盟員拡大到達表 2023.2.28 現在

支 部	国賠署名		同盟拡大	
	目 標	到 達	目 標	到 達
岡 山	7,000	2,351	200	231
備 南	2,500	520	80	52
美 作	800	763	50	34
玉 野	700	22	20	20
県 計	10,000	3,656	350	337



再び戦争と暗黒政治許さず、署名と会員
拡大特別期間(4.15.6.30)を成功させよう

3月24日に中央常任理事会が開かれ、今、岸田自公政権が「戦争をする国」へ暴走している中、五〇回目を迎える国会請願行動の成功にむけ、署名運動の飛躍と四〇回大会で決めた二万人会員を実現するため、4月1日から六月三〇日を「特別期間」にすることを決定しました。

岡山県は昨年、県本部大会で四〇〇名の会員、国賠署名は一万
支部、会員のみ皆さんの奮闘を呼びかけます。

「ふたたび戦争と暗黒政治を許すな！」
五月一六日、五〇回目の国会請願行動の成功へ国賠署名を「あと5筆、10筆」と二人、ひとりの会員が広げよう

岡山県版
No. 324
2023年4月15日
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
岡山県本部
〒710-0131
倉敷市天城台
4-7-12 福井方
振替 01300-4-99361
mail: family-fukui@khf.biglobe.ne.jp

いつせい地方選挙
県議三候補、岡山市議五候補へ「必勝」為書きをもつて激励

三月三十一日、県議選、岡山市議選が始まりました。

県本部は河井伸士会長の「必勝」為書きを倉敷市の県議選、岡山市の県議二候補、市議五候補の事務所を激励に回りました。ちょうど、北区は市田忠義副委員長が参加し

て緊急決集会の最中でした。写真は岡山市南区の東事務所。



「軍事費は減らすべきた」が七六%

高梁9条の会の共同行動は今回が一九〇回目。軍事費についてのシール投票は、短時間でしたが三〇人が投票。

「減らすべきた」が二三人、76%で圧倒的に多く、「現状でよい」が二人、「増やすべきた」が一人、「わからない」が四人でした。市民は、「軍事費は減らさんといけんじゃろ」「沖繩がまた危険な矢面に立たされちゃう」などと語りながら投票していました



「減らすべきた」が二三人、76%で圧倒的に多く、「現状でよい」が二人、「増やすべきた」が一人、「わからない」が四人でした。市民は、「軍事費は減らさんといけんじゃろ」「沖繩がまた危険な矢面に立たされちゃう」などと語りながら投票していました

国会請願行動成功に向け署名集めに奮闘

岡山支部 河井伸士

三月五日、西大寺の百花プラザ

で映画「希望の二〇〇年」の上映
会があった。当日は一九六名の参
加があり、三五筆の署名。

三月一三日は「重税反対集会」
瀬戸会場で行動。ここで三六筆の

署名。

午後「みえさんの家」職場会
議でお願いして署名一三筆。こま
めに人の集めるところへ出かける
のが「いいな」と思います。

治安維持法同盟県本部顧問

木島一直さんを偲ぶ

小野富男



三月一五
日、木島一直さんが一〇一歳で逝
去されました。一世紀を全力で駆
け抜けた人生です。

一九四六年、三井造船玉野工場
に就職。ともに活動する静子さん
と結婚。一九四九年から日本共
産党の常任活動に入り、この年に
全造船玉野分会は越年の賃金要求
でストライキを構え、大争議に発
展。会社は第二組合をつくって組
合つぶしを図り、組合役員の四七
名を解雇。引き続き、アメリカ力G
HQは全国で「スト中止」を命じ、
職場の共産黨員四七名を追放。

木島さんは以後、岡山県党の発
展に尽力し、六〇年代の前進と高
揚の礎を築き、地区委員長、県副
委員長の重責を歴任。同時に参院
選など幾多の選挙の党候補として
全県を駆け巡り、日本共産党の躍
進、政治革新に奮闘しました。
また、木島さんは妻の静子さん
とともに短歌を詠みました。平和
の願い、働く者の幸せを願い、静
子さんとともに闘った人生を「た
たら」に発表し、お二人の作品を
集大成した短歌集「双葉」を出版
しました。
その中に私に関わる歌がありま

三・一三重税反対集会での署名行動

備南支部 池上尚美

3・13重税反対集会に参加して
署名行動を行いました。

児島会場には三人、玉島会場へ
は二人、倉敷会場へは三人で行動。
合わせて九九筆の署名が集まりま
した。消費税一〇%の上に四三兆

す。

亡き母の奥技を受けてのかぶら
漬け

地区委員長の逸品いただく

一直さんの作に
大江氏ら9人の知性はよびかける
憲法9条を輝かせたい

大江健三郎さんもなくなりまし
たが素敵な歌です。木島さんは学
びの人、知を力にともに闘った二
人に乾杯。

いよいよ地方選挙。「再び戦争
と暗黒政治を許すな」の声を広げ
に広げて頑張りましょう。木島一
直さん 一世紀を超える人生 ご
苦労さまでした。



円を超える大軍拡
は「戦争をする
国」。「冤罪・弾圧」
と闘う瀬屋町子さ
んの訴え、「戦争
と暗黒政治を許す
な」の国賠署名に
集会参加の人たちは岸田政権への
怒りを込めて署名におうじてくれ
ました。

3月 事務局日誌

- 5日 映画「希望の百年」東区
上映会
- 8日 県本部役員会
- 9日 県岸伸子さん（札幌女性
研究会）／県女性部の懇談
（枚数よしこ）／美作支部役
員会
- 10日 重税反対集会児島会場
- 11日 岡山支部役員会
- 「不屈」発送作業
- 12日 日本原「米軍」演習反対
集会

国賠署名国会請願署名 目標の八〇〇筆達成へあと一歩!

美作支部 中西 孝

美作支部役員会は津山民商さんに「三一三三重税反対集会」に向け、国賠署名への協力をお願いしてきました。三一三集会の当日には会場の津山文化センター大ホールで支部役員が集会参加のみなさんにお願いをし、集めた八六筆の署名とそれまで班会での署名を合わせて二八三筆が寄せられます。

員・兵庫県連常任として活動。一九二六年一月に日本共産党に入党した。
三一五弾圧の時、神戸で逮捕、投獄され、懲役六年の刑。釈放後に「ハンセン病」を発症し、岡山県の長島愛生園に収容される。
旧友、岸本邦巳が「日本共産党三五周年」にあたって
三宅右市を偲んで読んだ歌
(板野勝次著「嵐に耐えた歲月」から)

神戸の空に―

兵庫県党創立に参加した三宅右市

板野勝次さんは一九二五年、岡山から神戸に移って活動し、一九二六年に海員刷新会の田中松次郎をキャップに五名で神戸市細胞を結成した。その中にもう一人、岡山出身の三宅右市がいた。板野さんの著した『嵐に耐えた歲月』には当時のことが詳しく記されている。

板野勝次とともに神戸市細胞のひとりとなった三宅右

市。彼は労働党対策、工場細胞準備会で活動し、大胆沈着、精力的な活動家だった。三宅右市は田中松次郎の後を神戸市細胞の責任者となる。
三宅右市は「本籍 岡山県御津郡牧山村北野一五八四番地。明治大学法文科専門部卒。一九二五年頃から神戸地方で労働運動に参加。日本俸給生活組合に属し、評議会中央委員、労働党中央委

字市の「ど根性の太さ」ポソポソと
語り出す理論のたくましくも凄く
兵庫県本部の田中隆夫さんは「兵庫民報」2・26に三宅右市のことを「一九三六年、長島愛生園で待遇改善の闘いを指導したが、官憲の弾圧と病院側の懐柔策で闘いは収束させられ、三宅右市は責任を取らされて香川県の大島青松園に転院させられた」と紹介している。そこでの「待遇改善の闘い

- 13日 重税反対集会瀬戸、倉敷、玉島、津山会場での署名行動
- 14日 女性部会議
- 15日 「不屈」美作版発行
- 24日 中央常任理事会
- 31日 県議選、岡山市議選告示
「必勝為書き 激励訪問

とは。
この事件を契機に群馬県の栗生楽泉園内に「特別病室」が設置され、あの忌まわしい二三名の凍死者を出した「癩刑務所」建設につながる。
戦後、三宅右市が帰郷したのは久米郡福渡町。その後に金川町牧山に転居して若くして亡くなる。牧山は旭川の川下。金山の中腹に「北野」という集落がある。今は岡山市北区。
「解放のいしすえ」を見ると「三宅右市」は一九五六年(昭和三十一年)第九回目の「解放戦士無名戦士の墓」に合葬されている。三宅右市の戦中、戦後の闘いは。治安維持法犠牲者の発掘と顕彰の課題である。

(県本部 福井正樹)

治安維持法下の闘い

永遠なる青春をおくつた女性

― 棧敷ジョセフィンよし子

—その4—

女工たちの労働実態を見て

一〇〇〇人を超える女工さんの労働実態をつかもうとよし子は、夜中に度々、職場に入っていた。一緒に夕方の六時から明け方六時まで働いてみた。深夜、一五分の休憩になると綿ほこりのまま、機械にもたれて眠ってしまう。毎月、修養団がやってきて、大広間に女工さんたちを正座させ、「流汗鍛錬、同胞相愛」と唱和させる。

よし子は「徹夜じゃないの。早く宿舎へ帰らせて」と叫びたかった。貧血で倒れる女工さんがいると「さ、帰りましょう」と連れだした。「私たちのことをわかってくれている。味方になってくれる」。女工さんたちとよし子の間で信頼関係が作られていった。

一九二九年になると自修寮の教育を受けた女工さんたちから社会科学の学習を深め、積極的に工場

内の問題を考える女工さんたちがよし子の周りに集まり始めた。

そして万寿工場の第1、第2、第3工場に信頼できる「学習会グループ」が出来上がっていった。また、この年の七月から「婦人と一六歳未満の深夜業」が撤廃された。よし子が学生時代に「女子と未成年者の深夜業撤廃」を求めて署名活動を行い、警察に引っぱり張られたことを思い出し、なつかしさと熱い思いが駆け抜けていった。

しかし、この頃から世界恐慌の波が押し寄せ、合理化と労働強化が厳しくなっていく。

倉紡でも採用中止、依頼退職を募り、病気になったり、疲労気味の女工に「休養」を命じ、帰郷させたりした。当然のこととして労働者の間に不安、不満が大きくなり、人は減って、受け持つ機械は増えるから、負担が増え、仕事も遅れがちになった。

労働強化に反対するストライキの準備を！

一九三〇年四月のある日、第1工場の係長が全員を集ませ、「残業をしてもらいたい。一時間、一銭の残業代で」と。労働者から憤激の声が上がった。翌日は一日、機械が止まった。このストで残業のことは取り消された。このことが「闘えば勝つことができる」と

全職場の労働者を励ました。棧敷よし子と

「学習会グループ」の活動は静かに広く、そして激しく女工の心に燈をともしていった。

「抵抗の証言3集」―坪井あき子 著より



現在の万寿工場跡―美観地区

女性部
だより

「北海道から岡山へ」 ― 札幌女性史研究会の方との懇談

女性部 谷口洋子

三月九日、県女性部は岡山市の野田屋町公園にある「福田英子の碑」前で一九三〇年に闘われた「倉紡万寿工場争議」と「棧敷よし子」についての調査、研究のために来県した札幌の女性史研究会の方3名と懇談しました。生前、棧敷さんにお会いし、「抵抗の証言3集」に評伝も書いた坪井あき子さんへの聞き取り、県立図書館で一九三〇年の社会情勢や「争議」報道などの調査で当時の様子がよく分かったと語っていました。

女性部が毎年、「福田英子の碑」の清掃を行っていることに敬意を表され、北海道での先駆者たちの碑前祭の様子も語りました。参加者はそれぞれ、自己紹介をし、「福田英子」や「棧敷よし子」の生き方に励まされ、その生き方への感動を語る交流の場となりました。また、小林多喜二の「蟹工船」エッセイを訳本が贈呈されました。北海道での国賠同盟の活動、女性史研究会の活動など新鮮な学びがありました。